

第6回分科会での主な意見

診調組 税-1参考2
2 5 . 8 . 2

I. 診療報酬とは別建ての高額投資対応

○診療側委員

- ・消費税率8%時に別建て高額投資対応を行わないということに賛成(今村委員、堀委員、森委員、西澤委員)。
- ・10%時点では税制による抜本的な改革を要望しているので、8%の段階のみ見送るという中途半端な議論ではなくて、「消費税率8%への引き上げ時には」という表現について)10%の時にまた高額投資の話が出るのか、というような読み取られ方をするのはあまりいいことではない(今村委員)。

○支払側委員

- ・今村委員からも指摘があったとおり、「消費税率8%への引き上げ時には」という表現について)表現上の問題はあるかと思うが、中身としてはこういう方向(=別建て高額投資対応を行わない方向)で診療側も同意したと理解している(白川委員)。

II. 診療報酬による対応

○診療側委員

- ・案1(「基本診療料・調剤基本料」へ上乘せ)か、案1と案2(「個別項目」へ上乘せ)の組み合わせではないか(今村委員、森委員)
- ・案1の形で、所定の点数を変えるより、加算という形が良いのではないか(堀委員)
- ・案1'(「高額投資」の加算)はまず考えられないと思っている(森委員)
- ・案3(「一点単価」への上乗せ)は現実的に難しいのではないか(堀委員、今村委員、森委員)
- ・病院団体として色々な意見があり、まだ高額投資を導入することの是非についてしか議論できておらず、導入しない場合については団体内部でももう少し色々な意見を聞いて、結論を出したい(西澤委員)。

○支払側委員

- ・なるべく負担された医療機関に公平に手当できるような仕組みを目指すべきというのが基本スタンスであり、そのような趣旨から医科、歯科、調剤ごとに負担に見合う手当をするという方向については賛成である(白川委員)。
- ・従来案2(個別項目)のやり方に案1(基本診療料・調剤基本料)を組み合わせるようなやり方がよいのではないか(白川委員)
- ・案3(一点単価)についてはシステム関係で莫大な投資が必要になり、社会的にも大きな影響があるので、とるべき案ではない(白川委員)。
- ・案1'(高額投資の加算)については、どうしてこのような考えになったのか、よく理解できないが、当然やるべきではないと思っている(白川委員)。
- ・資料上、診療所と病院とで初・再診療を変えるかのようにみえるが、初・再診料は同一点数ということで、長年の苦勞でそのような形になってきており、点数にまた差をつけることには基本的に反対である(白川委員)。

III. 財源規模

○診療側委員

- ・今年の医療経済実態調査結果が出てからでは議論が限られた時間しかないなので、過去の調査結果から課税仕入れ額を大まかに試算し、8%時にどのような計算をするのか、その計算式の案と財政規模の試算を示してほしい(今村委員)。
- ・おおよその規模感がわからないと診療報酬による対応の議論もできない。おおよそざっくりとしたものでも出して頂かないと難しいのではないかと考えている。是非次回で結構なので、細かい改定率を決めるとは言っているわけではないので、検討してほしい(今村委員)。